

米国薬学研修プログラムのための事前英語研修とその効果

○林田 真梨子¹, 木下 健司¹, 野口 ジュディー・津多江¹(¹武庫川女大)

【背景】我が国における薬学教育は近年 6 年制に移行し、薬学の専門的知識を有する臨床薬剤師の養成が本格的に始動した。本大学では 2010 年度より、薬学科 5 年生を対象に計 4 回の米国薬学研修プログラムを実施している。約 4 週間の留学期間に、学生自身の力で多くのことを吸収すべく、留学前の事前研修にて英語学習を指導してきた。参加学生に対し意識調査を行い、事前研修および留学の効果を調査したので報告する。

【方法】2013 年 4～5 月に週 1 回計 5 回の事前研修を実施し、留学前に英語学習を指導した。事前研修では、継続的な自主学習を促すため、英文ニュースのリスニングと音読練習、自己紹介や薬学専攻理由についての英作文などの課題を設け、研修中に発表させた。さらに専門英語の学習のため、医療英単語表および医療施設訪問時用の質問表を配布した。2013 年 8～9 月、4 週間に渡り米国薬学研修プログラムを実施した後、アンケート調査およびインタビューを行った。また、留学前後の英語力を TOEIC 試験にて測定した。

【結果】本プログラムでは現地医療施設の訪問や薬学部との交流を実施したが、本学生が自主的に意見を発することにより、より深い意思疎通が可能となったため、事前研修での課題やスピーキング練習が非常に有益であったといえる。専門英語の予習を促した結果、学生はリスニング力が強化され、米国薬学事情について多くのことを吸収出来た。また留学前後で TOEIC スコアは平均約 70 点上昇した。参加学生からは「薬剤師としての今後の課題と目標が明確になった」など、積極的な意見が寄せられた。留学経験は学生の将来展望に大きな影響を与えるものであり、事前研修が留学時の学習に大きく貢献していることが明らかとなった。